

# 明治期における山口県の幼稚園教育に関する研究

-日本最古の仏教系私立幼稚園華浦（現 鞠生）幼稚園のはじまりに着目して-

三吉愛子

本研究の目的は、山口県における明治期開設幼稚園に現存する史料を発掘し、日本で最初の仏教系私立幼稚園の史料分析をするために、その設立に影響を与えた歴史的背景と人物の繋がりについて明らかにすることである。まず、明治期における日本と山口県の幼稚園のはじまりについて概観した上で、日本最古の仏教系幼稚園として設立された華浦（鞠生）幼稚園に焦点をあて、歴史的背景と人物について検討した。そこで、華浦（鞠生）幼稚園設立には明治期における山口県（長州藩）の歴史的背景や幕末期や明治維新から輩出された多くの人材との繋がりが影響を与えていることが解明された。

キーワード: 明治期,山口県の幼稚園教育,華浦（鞠生）幼稚園,日本最古の仏教系私立幼稚園

## Research on Kindergarten Education in Yamaguchi Prefecture in the Meiji Period

Focusing on the inception of Kaho (now Marifu) Kindergarten,  
Japan's oldest private Buddhist-affiliated kindergarten

Aiko Miyoshi

This research is aimed at, as a means of excavating the documents that exist in kindergartens that opened during the Meiji Period in Yamaguchi Prefecture and analysing those regarding Japan's first private Buddhist-affiliated kindergarten, clarifying the historical background and the human relations that influenced the kindergarten's establishment. The article first provides an overview of the inception of kindergartens in Japan in general, and in Yamaguchi Prefecture in particular, during the Meiji Period. It then focuses on Kaho (Marifu) Kindergarten, which was established as Japan's oldest Buddhist-affiliated kindergarten, in order to examine the historical background and the people involved. The research revealed

that the establishment of Kaho (Marifu) Kindergarten had been influenced by the historical background of Yamaguchi Prefecture (the Choshu Domain) in the Meiji Period and by the relationships with many capable talents that emerged from the end of the Edo Period toward the Meiji Restoration.

Keywords: Meiji Period, kindergarten education in Yamaguchi Prefecture,  
Kaho (Marifu) kindergarten, Japan's oldest private Buddhist-affiliated kindergarten

## I. はじめに 研究の目的

本研究の目的は、山口県における明治期開設幼稚園に現存する史料を発掘し、日本の幼児教育史研究で重要となる地方の史料分析を行うために、日本最古の仏教系私立華浦(鞠生)幼稚園の設立に関与した歴史的人物を探り考察することである。

1876(明治9)年、我が国最初の正式な幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園が開園され、その後各地の幼稚園は、東京女子師範学校附属幼稚園の影響を強くうけて設立されていくこととなる。日本に創設されたキリスト教主義幼稚園については、明治期に米国人宣教師によって1886(明治19)年金沢に開設された英和幼稚園(現在の北陸学院短期大学附属第一幼稚園)に始まった。1889(明治22)年には神戸に頌栄幼稚園を創設し、その後キリスト教主義幼稚園は次第に増し、1896(明治29)年には15園が米国人宣教師により開設されていった<sup>1</sup>。その流れにより、山口県においても、山口市に1895(明治28)年、北米長老教会宣教師コルテス女子によって明星幼稚園が設立された。このように、我が国のキリスト教主義幼稚園の発展の経緯については自明のことであるが、山口県に存在する日本最古の仏教系幼稚園のはじまりについては、岡田(1979)の『幼児保育小事典』の中で、明治期の仏教保育として幼稚園では「華浦幼稚園(山口・明治25年)、共愛幼稚園(兵庫・明治30年)、常葉幼稚園(京都・明治34年)、足利幼稚園(明治34年)が知られている<sup>2</sup>」と記載されているのみで、その詳細は明らかにされていない。また、1979(昭和54)年文部省刊行の『幼稚園教育百年史年表』の中においても、明治期の山口県の幼稚園設立についての記載は全くなく、山口県は日本の幕末から明治維新の歴史的背景やその私塾等の関連からも教育熱心な県であることが明確であるにもかかわらず、その時代の幼稚園教育実践内容に言及した研究は管見の限りない。

そこで本稿では、先に述べた本研究の目的としての端緒を開くためにも、明治期における山口県の幼稚園教育史を再度概観した上で、日本最古の仏教系幼稚園として設立された華浦(鞠生)幼稚園に焦点をあて、地方の史料をもとに歴史的背景を探るとともに様々な人物との「中央」の繋がりからその嚆矢を解明することを目的とする。

<sup>1</sup> 文部省(1979)『幼稚園教育百年史』pp.43.

<sup>2</sup> 岡田正章(1979)『幼児保育小辞典』日本らいぶらり, pp.44.

## II. 先行研究の検討と本研究の方法

幼児教育史研究における現在の課題として、湯川(2007)は、地方の幼稚園教育史に関する史料・資料の発掘の必要性を述べている。明治前期においては比較的研究が進んでいるにもかかわらず、東京女子師範学校以外についての幼稚園の実態解明は十分に進んでいないことや、保育内容の実践史や保育者養成に関する史的研究などは未開拓であると指摘している。また、宍戸(1988)は、史料の発掘・収集・整理という基本的な作業が低調であることや、史料が入手しやすい思想史・制度史・施設史などに重きがおかれ、具体的な保育内容や保育方法・カリキュラムなど現場の保育実践に踏み込んだ歴史的研究が少ないことを課題として挙げている。また、田中(1998)は、幼児教育の歴史的研究について公的な文書以外の日誌など幼児教育史料の発掘・収集の困難さを指摘し、小山(2012)は、幼稚園に焦点をあてた歴史的研究において地方幼稚園間の関係性の存在について十分に検討がなされてこなかったと指摘するとともに、宍戸、湯川らと同様、実践者レベルでの保育思想の実態に迫る研究の重要性を説いた。さらに、金子(2013)は、幼稚園における保育案からの分析として、保姆の手記や研究ノートなどの探索と収集を通じ、保育実践変容の背後にあると思われる問題意識を探ってゆくことの必要性と、接続先である小学校の理論・実践との関係について検討する余地が残されている点や、地方の幼稚園における当事者の幼稚園観や課題意識の検討の必要性について課題として明らかにしている。

また、歴史研究において一次史料の発掘や詳細な事例の個性記述的分析は、それ自体も価値を持つものではある。しかし、湯川(2007)は、日本の幼稚園創設の過程についての史料としては『日本幼稚園史』『日本の保育制度』『日本近代教育百年史』『日本幼稚園教育百年史』といった通史があるに過ぎず、また小針(2005)は、『文部省年報』という基礎的な史料すら幼児教育史においては十分に内容が整理・検討されていないことを課題として指摘した。また、同史料については、『文部省年報』内の幼稚園に関する言及や統計の分析を通じた、地方における幼稚園の実態の解明、及び幼稚園の背景の検討は十分に進んでいない。特に、山口県の幼稚園については、1979(昭和54)年文部省刊行の『幼稚園教育百年史年表』の中には、明治期の山口県の幼稚園設立についての記載は全くなく、岡田(1979)による『幼児保育小事典』の仏教保育の中での「華浦幼稚園(山口・明治25年)」の記載と、湯川(2007)の保育課程に対する規制<sup>3</sup>として1893(明治26)の3幼稚園(岩国幼稚園・華浦幼稚園・豊浦幼稚園)における保育課程の疑義とその訂正について記載である。また、研究ノートとして、西本・国広(2011)に

<sup>3</sup>湯川嘉津美(2007)『日本幼稚園成立史の研究』pp.349. 明治廿五年三月末現在調の各地幼稚園調査表に山口県岩国尋常小学校附属幼稚保育科、同公立鴻東尋常小学校附属幼稚保育科、同公立今道尋常小学校附属幼稚保育科、同公立明倫尋常小学校附属甲種保育場について明記されている。また明治廿七年の公私立幼稚園保育課目取調表に豊浦幼稚園、今道幼稚園、鴻東幼稚園は記載されている。

よる山口県における幼稚園・保育所の拡充についての研究はあるが、主に量的な歴史的変遷の言及が存在するのみである。

このようなことから鑑みて、山口県地方における幼稚園教育に関する研究は十分言及されているとはいえない。そこで、今回は主に中央と山口県地方との繋がりを解明し、日本で初めての仏教系私立幼稚園鞠生幼稚園の設立へ込められた熱き思いと、明治政府の近代化政策のなかで、欧米の進んだ文化導入の一環として海外から取り入れられた「中央」いわゆる東京女子師範学校附属幼稚園設立に関係した人々との影響と繋がりを解明し、本研究の意義と今後の方向性を探りたい。

### III. 明治期の幼稚園概観

#### 1. 我が国における幼稚園のはじまり

1872(明治5)年の学制では、今日の幼稚園を幼稚小学と呼び、その第22章には「幼稚小学ハ男女ノ子弟六歳迄ノモノ小学ニ入ル前ノ端緒ヲ教ルナリ」と定め、1874(明治7)年3月に「育幼ノ責ニ任スル者ヲ養成スル」ことを目的として東京女子師範学校を設立することを文部省は定めた。次いで1876(明治9)年、我が国最初の正式な幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園が開園した。1877(明治10)年7月に制定された附属幼稚園規則に、幼稚園の目的として「学齡未滿ノ小兒ヲシテ天賦ノ知覺ヲ開達シ固有ノ心思ヲ啓発シ身体ノ健全ヲ慈補シ交際ノ情宜ヲ曉知シ善良ノ言行ヲ慣熟セシムル」ことを掲げ、その後各地の幼稚園は、この東京女子師範学校附属幼稚園の影響を強くうけていくこととなる<sup>4</sup>。

また、我が国最初の幼稚園は、明治政府の近代化政策のなかで、欧米の進んだ文化導入の一環として海外から取り入れられたものである。1871(明治4)年～1873(明治6)年、岩倉具視使節団が欧米各国の教育制度を調査研究するために外遊した際、文部理事官として随行した田中不二麿は、女子師範学校とフレーベルの幼稚園に関心を抱いて帰国した。1874(明治7)年、田中不二麿は太政大臣三条実美に東京女子師範学校設立の伺書を提出し、翌1875(明治8)年、文部大輔に昇任した田中は『幼稚園開設之儀』の伺書を7月と8月の二度にわたって提出している。こうして1875(明治8)年11月29日に東京女子師範学校が開校し、翌1876(明治9)年、東京女子師範学校附属幼稚園が開園した。また、ドイツのフレーベル(Friedrich W. Frobel 1782-1852)が創設したキンダーガルテン(Kindergarten)は、フレーベルの没後ヨーロッパとアメリカに普及した。アメリカでは1870年代に幼稚園運動が活発に展開され、1873(明治6)年にはセントルイスの公立小学校の最下学年に幼稚園が組み込まれるほどであった。1876(明治9)年

<sup>4</sup>文部省(1979)『幼稚園教育百年史』pp. 33-37. 初代監事には関信三、主席保姆に松野クララ、保姆に豊田英雄と近藤濱が就任し、松野の教えを受けながら幼児に対する実際の指導に当たった。松野は日本語を解しなかったため、豊田らは関など英語に通じた人の通訳に助けられながら我が国における幼稚園教育の道を開いた。

には米国建国百年記念万国博覧会がフィラデルフィアで開催され、明治政府は多人数の要員を派遣したが、これに田中不二麿も随行し米国の幼稚園に強く惹かれた。同じ頃、自由民権思想家の中村正直も、幼稚園を紹介し、幼児たちが集団で交わることの意義を唱えていた。以上のように、日本の幼稚園はフレーベルの理想主義的な幼稚園教育がアメリカに渡ってフレーベル主義となったものの導入であり、政府主導で国立の幼稚園が創設されたこと、という二点で諸外国に比して特徴的であった。1887(明治20)年には国立1、公立52、私立14、計67の幼稚園が公立主導で設立されたが、1909(明治42)年には、国立1、公立208、私立234、計443と、私立が公立を上回るようになった。

#### 2. 山口県における幼稚園教育の始まり

日本初の仏教系私立幼稚園鞠生幼稚園への着目経緯を読み解く前に、明治期の山口県における幼稚園の状況を概観する。日本では、1876(明治9)年に東京女子師範学校に附属幼稚園が開園して以来、1879(明治12)年に鹿児島県、大阪府、宮城県に同校の直接的な影響を受けた幼稚園が開園した。明治10年代の全国的な幼稚園の増加は緩やかであったが、山口県では、明治10年代前半頃まで、幼稚園設置の機運が熟せず1885(明治18)年になって岩国市の岩国小学校に幼児保育科が最初で保姆は筏カナ、加藤スミの両名である(『岩国小学校百年史』、『山口県教育史』には18年とある)。1886(明治19)年に山口市の山口町村学校組合立今道小学校(現山口市立白石小学校)に幼稚科が創設された。本県では、1886(明治19)年に「幼児保育科仮規則」を作り、1月12日付けで文部省に伺いを出している。これは東京女子師範学校附属幼稚園規則に準じたものである。1887(明治20)年には山口尋常師範学校女子師範学科に幼稚園科が設置され、保姆の養成に当たった。同校の通則第一条によると、その目的を「本校幼児保育科ハ女子師範生徒ヲシテ幼児保育ノ法ヲ実施ニ練習セシメ兼テ県下幼児保育法ノ模範ヲ示スモノトス」としている(旧版『山口県教育史』)。しかし、折角のこの養成所も1892(明治25)年には廃止された。当時の保育内容は、1887(明治20)年の「山口県布達」によりうかがえる。教科目には甲種と乙種がある。甲種は、会集、談話、庶物、木の積立て、板排へ、箸排へ、紙織り、紙摺ミ、紙剪り、縫取り、珠繫キ、豆細工、描キ方、数へ方、書キ方、読ミ方、遊戯、唱歌の18項目であり、乙種は、談話、庶物、木の積立て、板排へ、箸排へ、紙織り、珠繫キ、豆細工、描キ方、数へ方、書キ方、読ミ方、遊戯、唱歌14項目であった。(『幼児教育100年のあゆみ』)。甲乙種とも『幼稚園法二十遊嬉』の内より選出していることがわかり、フレーベルの恩物教育が中心であった。

小学校の附属幼稚園が次々に創設され、1888(明治21)年には全国に存在する公立幼稚園の91園中10園の公立幼稚園が山口県内にあり、全国的にも非常に大きな割合を占めており、その幼児教育への取組みの熱心さがうかがえる。しかし、財政難により継続が困難となったことから、華浦、松崎の両尋常小学校の幼稚園保育科もこのころ廃止されたと思われる。1892(明治25)年、その後、防府の三田尻に創設した華浦幼稚園が県下最初の私立幼稚園である(『佐波教育史』)。

しかし、財政難で、3年後には閉鎖のやむなきに至った。1895(明治28)年山口に、北米長老教会宣教師コルテス夫人により、明星幼稚園が開園された<sup>5</sup>。入園児はアルタ、ラフ、相川信生、藤田米子の4名であった(『明星幼稚園創立80周年記念紀要』)。1892(明治25)年小学校併設の幼児教育科は廃止され、当時防府三田尻に華浦幼稚園が県内私立幼稚園第一号として開園することとなった。華浦幼稚園は、その後日本最古の仏教系幼稚園として人間教育の基本を大切にし、鞠生幼稚園として幼児教育を展開していくこととなる。

### 3. 山口県に現存する明治期開設幼稚園

先述した通り、東京女子師範学校附属幼稚園設立後、山口県において設立された小学校附設の幼児保育科も1892(明治25)年に廃止され、1891(明治24)年に13園あった幼稚園が1893(明治26)年には6園に減少した。また、明治期における山口県の幼稚園数や幼児数の推移は、Table.1とFig.1に示す通りである。1899(明治32)年度の山口県の幼稚園は、岩国幼稚園、鴻東幼稚園、今道幼稚園、明星幼稚園、豊浦幼稚園、赤間関幼稚園の6園で、私立は明星幼稚園の1園であった(旧版『山口県教育史』)。翌1900(明治33)年鴻東幼稚園と今道幼稚園が合併して、山口芳沢町に町村組合立亀山幼稚園が発足したが、1902(明治35)年廃園となり、1904(明治37)年4月に、私立亀山幼稚園として開設された。1907(明治40)年3月、防府市三田尻に幼稚園ができ、1908(明治41)年3月10日、鞠生幼稚園として県から認可されている。1909(明治42)年、宇部に私立博愛幼稚園が開設された。1909(明治42)年の統計では、全国的には、幼稚園の数は公立より私立が多くなっている。山口県でも同年初めに9園中6園が私立となり、公私が逆転した。

以上のような明治期の状況から、現存している明治期開設私立幼稚園として、山口市の明星幼稚園・亀山幼稚園、柳井市の柳井幼稚園、防府市の鞠生幼稚園があげられる。現在の各園案内によると、明星幼稚園(キリスト教)は、1895(明治28)年10月1日に、北米長老教会宣教師コルテス女子(ヘレン・カーティス)によって設立された、山口県下で一番長く続いている幼稚園である。多くのアメリカの方々のお祈りと援助をいただいて誕生しキリスト教主義幼稚園で、一人ひとりの幼児が神様と人々に愛される子どもとして成長し、幼児の人格が重んじられ幅広く個性のある子どもに成長することを願って保育をしてきた。また、亀山幼稚園(日蓮宗)は、1904(明治37)年 亀山のふもとで創設され、1908年(明治41)年に現在地(道場門前2丁目)に移転した。その後、平成元年に学校法人宇部学園立となり、山口学芸大学附属の幼稚園となった。亀山幼稚園という名称は、創設当時の所在地にちなんでつけられ、100年の歴史と伝統をもった山口で最も古い幼稚園である。次に、柳井市に現存する柳井幼稚園は、1909(明治42)年に創設され(禅宗)、柳井市のほぼ中央、みどりの木々に囲まれた小高い丘にあって眼下に柳井市内が見渡せる自然に恵まれた幼児の楽園である。明治時代の文豪国木田独歩曾遊の地とし

<sup>5</sup> 山口県教育会(1986)『山口県教育史』pp.358-359.

て知られ、市民からは「お山の幼稚園」として今もなお親しまれている。自然豊かな環境の中で明るくのびのびとした、思いやりのある子を育てたい。それが長い歴史と伝統の中で醸成された教育理念である。そして、防府市にある鞠生幼稚園(浄土真宗)は、1892(明治25)年、山口県下最初の私立幼稚園華浦幼稚園として開設したが、財政難により3年後には閉鎖のやむなきに至った。その後、1908(明治41)年に日本最古の仏教系幼稚園として、現在も創設以来の伝統を守り、徳育を中心とした人間教育に力を入れて幼児教育を展開している。

Table 1 明治期における山口県の幼稚園数・在園数・教員数の年次別推移

	明治18年	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	明治44年(1911年)	
幼稚園数		1	2	4	10	12	12	13		6	6	6	6	5	5			6	6	6	5	6	6	6	6	9	11	12
幼児数		55		140	419	355	347	328		233	211	176	179	168	220			285	251	277	241	294	301	285	287	463	728	795
教員数				9	355	19	16	18		7		5	8	6	12			13	15	14	11	13	14	14	14	18	22	19

(『山口県の教育統計』『山口県の統計百年』『山口県統計書』『山口県統計年鑑』他を元に筆者作成)

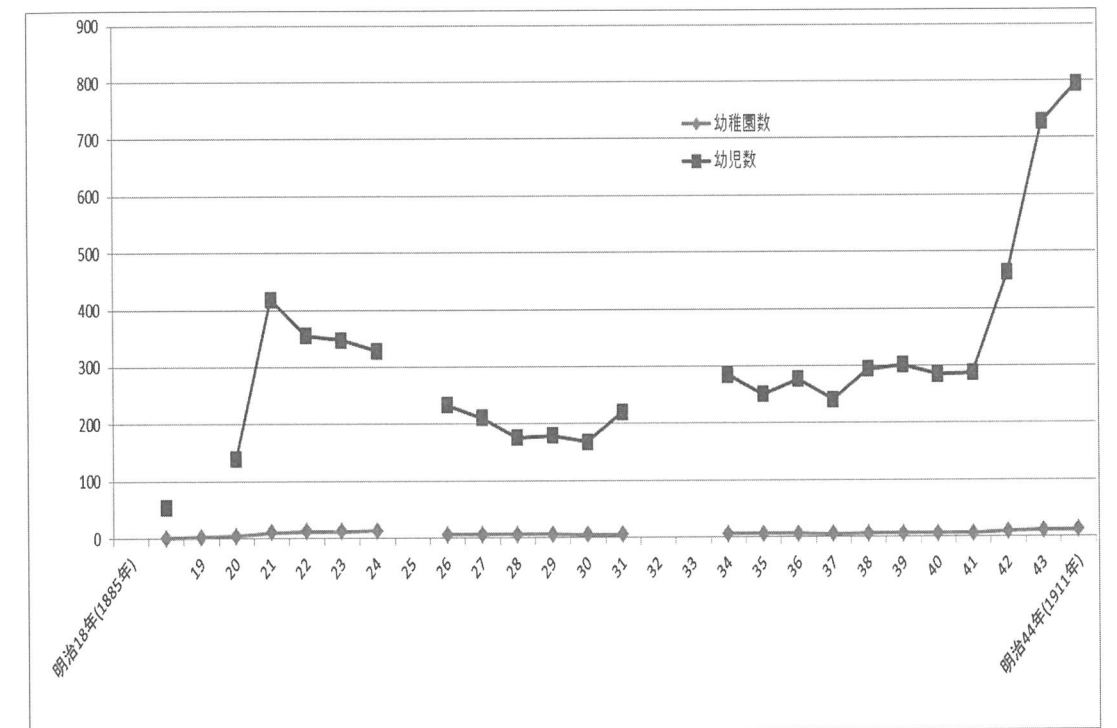


Fig. 1 明治期における山口県の幼稚園・在園児数の年次別推移

(『山口県の教育統計』『山口県の統計百年』『山口県統計書』『山口県統計年鑑』他を元に筆者作成)



#### IV. 日本初の仏教系私立幼稚園華浦（鞠生）幼稚園への着目

前述した通り、明治期開設幼稚園のなかで華浦（鞠生）幼稚園の設立の経緯としては、明治期における山口県（長州藩）の歴史的背景が大きく影響していると考えられる。まずはその時代背景として私塾を初めとした教育環境とそこで学び中央で活躍した歴史的人物との関係、また、その関係者の宗教が浄土真宗<sup>6</sup>であるということ、さらには、岩倉具視施設団のメンバーや中央における政治関係者との繋がりなど明らかになった点について述べる。

##### 1. 明治期の山口県の教育における歴史的背景

###### -防長教育の源流と展開-

防長教育の由来は、毛利氏の藩校「明倫館」にあるといわれており、これに呼応するとく、四つの支藩には、岩国藩（養老館）・徳山藩（興讓館）・長府藩（敬業館）・清末藩（育英館）などがあり、宗藩の明倫館にならって、大いに文教の興隆につとめ、特色ある教育を施し、初め儒学・剣槍術を授けたが、時勢の進運につれ、洋学を加え、砲術・練兵等を敢行し、維新の大業に参画する人びとを養成したのである。『日本教育史資料』によると、幕末・維新时期における現山口県域の庶民教育機関である郷校、寺子屋、私塾は、全国的に見て著しく普及した地域の1つである。すなわち郷校は全国108校あるうち山口県に20校あって全国1位、寺子屋は山口県に1304校あって、長野県の1341校に次いで全国第2位、私塾は全国1140校あるうち山口県に106校あって、岡山県の144校、長野県の125校・東京府の123校に次いで全国第4位を占めていて、当時の山口県の文化的、教育的すそ野の広さをうかがうことができる。

##### 2. 浄土真宗を通じた歴史的関係者の参照・交流関係

###### -島地黙雷について-

島地黙雷は、明治時代に活躍した浄土真宗本願寺派の僧である。周防国（山口県）和田で専照寺の四男として生まれる。西本願寺の執行長であった。1868年（明治元年）、京都で赤松連城とともに、坊官制の廃止・門末からの人材登用などの、西本願寺の改革を建白し、1870年（明治3年）に、西本願寺の参政となった。1872年（明治5年）、西本願寺からの依頼によって左院視察団<sup>7</sup>と同行、ヨーロッパ方面への視察旅行を行った。1888年（明治21年）女子教育にも

<sup>6</sup> 山口県は、寺の数や門徒数からいっても他の宗に比べて、浄土真宗が非常に多く、山口県の場合は殆ど本願寺派に属している。

<sup>7</sup> 左院には議長・副議長・議員・議生がおかれ、立法について合議が行われた。1875（明治8年）の元老院の設置に伴い廃止された。岩倉具視使節団が日本を発った約2か月後に左院がヨーロッパに派遣した視察団である。フランス・イギリス両国の議会制度の調査、研究を目的として5名で構成された。

力を注ぎ女子文芸学舎（現千代田女学園）を創立した<sup>8</sup>。この島地黙雷に嫁いだ香川八千代が香川黙識（日本最初の仏教系幼稚園華浦幼稚園の設立者初代園長）の妹である。その香川黙識は長年本山本願寺に勤務し、その後現在でいう、本願寺総務、宗会議長、副議長を歴任し、島地黙雷との関係性も深かったことがわかる。

###### -初代群馬県令・楫取素彦の経歴-

山口県の仏教系私立幼稚園鞠生（華浦）幼稚園への参照の経緯の中心人物であった楫取素彦の経歴をみる。楫取素彦は、1829（文政12）長門国萩魚棚沖町（現・山口県萩市）に藩医・松島瑞蟠の次男として生まれる。兄に松島剛蔵、弟に小倉健作（松田謙三）がいる。小田村家の養子となるのは1840（天保11）年で、同家は代々儒官であった。1844（弘化元）年明倫館に入り、同年19歳で司典助役兼助講となる。22歳大番役として江戸藩邸に勤める。1855（安政2）年4月、明倫館舎長書記兼講師見習となる。この頃から松陰の教育事業は盛んになり、1858（安政5）年11月の松下村塾閉鎖まで、初めはその計画に参加し、また時々訪問し間接の援助を与え、塾生とも相知ることとなる。松陰の激論を受け止め、相敬愛するところは、2人の交わりの特色である。松陰の投獄後には塾生指導の任に当たるも、国事に忙しくなり塾の世話ができなくなったが、明治以後に杉民治と共に一門の中心となって、松陰の顕彰に尽力した。1860（万延元）年山口講習堂及び三田尻越氏塾で教え、以後はもっぱら藩主に従って江戸・京都・防長の間を東奔西走する。維新後、いったん帰国して長州藩に出仕していたが職を辞し、1876（明治9）年新設された群馬県の初代県令となった。その後、防府市三田尻部長官である楫取の賛助を得て、明覚寺十八世香川黙識が三田尻本町に仏教系としては、初の幼稚園である華浦幼稚園を開いた。

華浦幼稚園は、1908（明治41）年明覚寺の隠居地である鞠生松原に移され、現在も鞠生幼稚園として続く。このように、楫取素彦は、天才で知られる吉田松陰の陰で彼を生涯支え続け、松陰の死後もその志を継いだ。幕末、長州藩主の側近として各地を飛び回り、坂本龍馬を桂小五郎に紹介して薩長同盟の端緒役となる。維新後は、初代群馬県令として活躍し群馬を教育県として発展させた。妻の寿も県民教諭のため浄土真宗の布教を望み進めた<sup>9</sup>。学者であり、教育者であった楫取素彦は、群馬の地で教育の充実に携わり、大いに力を発揮した。当時は義務教育を理解できなくて、通学しない者や通学しても農閑期だけ通学してくるといった状況の県民を説得し、豪農や豪商に資金を出させるなどして、小学校を建設していった。その他、幼稚園、中学校、女学校、医学校、師範学校などを整備し先進的な教育環境を実現させた。そして、小学生の就学率を全国トップレベルに高め、「西の岡山、東の群馬」と称せられるまでになった。これからの社会を生きていくのに基盤となる正しい心、健全で逞しい心を身につけさせるため

<sup>8</sup> Silvio VITA (2008)「西本願寺の教状視察とイタリア訪問の足跡 —島地黙雷の『航西日策』を中心に—」『立命館大学研究紀要 言語文化研究』20巻2号, pp. 129-136.

<sup>9</sup> 一坂太郎(2014)『楫取素彦と吉田松陰の妹. 文』角川.

の道徳教育に力を入れた。そしてその道徳の教科書として日本で最初の道徳の教科書「修身説約」十巻を編纂させた<sup>10</sup>。その際に幼稚園開設に尽力したのが松野クララである。1912(大正元)年8月14日、山口県の三田尻(現・防府市)で死去した(享年84歳)葬儀は、防府町三田尻(現防府市御お茶屋町)の明覚寺(香川家)において仏式で葬儀が行われた浄土真宗の明覚寺の香川家と楫取家のゆかりは深い。

### 3. 初代鞠生幼稚園園長香川黙識と楫取素彦との関係

岡田(1979)の『幼児保育小事典』によれば、「鞠生幼稚園は明治二十五年四月、浄土真宗本願寺派南溟山明覚寺第十八世住職香川黙識<sup>11</sup>が元三田尻管掌楫素彦の多大なる賛助を得て、三田尻の旧・本町に創立し、香川信代、山中キヨを保姆として、約三十数名の園児を保育した。その後、明治四十一年に明覚寺の隠居地であった鞠生松原(華浦地区)に移転し現在に至り、百二十年を経過した。仏教系の日本最古の幼稚園である。」とある。香川黙識は明治初期の廃仏毀釈運動から仏教を救った島地黙雷と同志であり、義兄弟の関係にあった。その島地黙雷は過去吉田松陰とも交流があり楫取素彦とも互いを認め合う関係であった。楫取素彦が群馬県令時代おこなった真宗本願寺派の開教事業では、総本山が打ち出した東北開教の方針と合致し、その総本山本願寺に島地黙雷がいた。そのお陰で人物登庸、開教のための組織づくり、開教所(寺院)の建立いづれについても思いきった施策を講じることができた。また、楫取素彦と香川黙識は、越氏塾での師弟関係にあり、楫取素彦は機会あるごとに明覚寺を訪ね、子弟教育の大切さ、特に、西洋化の流れの中で教育が知識中心で個人主義になっていくのを憂い、徳育が大切であるという信念を持ち、子弟教育を重視する同志であった。また、香川黙識の孫が楫取素彦の曾孫若松に嫁ぐことになり、その縁はさらに深まってゆく。そのような、香川黙識、島地黙雷、楫取素彦三人の心の絆が楫取素彦を防府へ引き寄せたとも思われる<sup>12</sup>。

### 4. 松野礪と松野クララと関信三、楫取素彦との関係

松野礪は、1847(弘化4)年、長州藩美祢郡大田村(現山口県美祢郡美東町大字太田)の郷土大野徳右エ門の四男として出生した。長じて姉の婚家先の義兄にあたる医師長松幹家に寄寓し、和漢のほか蘭学・医学を学び、幕末の動乱に乗り義兄と脱藩し上京した。その時から両家の一字をとって松野姓を自ら名乗ったという。1869(明治2)年に22歳で上京してからは、医学のほか専心ドイツ語を学び、蘭・独両語の学力をかわれ、1870(明治3)年末に北白川宮能久親王のドイツ留学に随行する機会に恵まれた。北白川宮の陸軍士官学校入学後、随行の義務から開

<sup>10</sup> 吉村洋輔(2015)『至誠の人 楫取素彦』公益財団法人毛利報公会。

<sup>11</sup> 香川黙識 浄土真宗本願寺派 上首(明治31年時点) 史料1。

<sup>12</sup> 楫取素彦没後百年顕彰会(2012)『吉田松陰投獄後の松下村塾を託されていた男爵楫取素彦の生涯』公益財団法人毛利報公会, pp. 319-327。

放され、暫くは基礎学を収め最初は林業の現場を体験し、1872(明治5)年10月にベルリン近郊のアーベルスワルデにある高等森林専門学校に入学し勉学に励んでいた。松野の最初の望みは国家経済学の勉強にあったが、天下国家の學より実学の重視を説く青木の強い勧めによって林学を学ぶことになったものである<sup>13</sup>。

松野クララ(クララ・チーテルマン)は、明治時代の幼児教育者、1853(嘉永4)年ベルリン生まれのドイツ人女性である。フリードリッヒ・フレーベルが創立した保母学校に学び、1876年(明治9年)に来日し、ドイツで知り合った松野礪(林学者)と結婚した。これは、日本人男性とドイツ人女性の国際結婚の第1号だった。1876(明治9)年に設立された東京女子師範学校付属幼稚園にて、初代監事(園長)関信三の下で首席保母となり、豊田英雄・近藤濱を保母として、フレーベルの恩物の使い方や遊戯、実際の保育の技法を通じて、フレーベルの教授法を初めて日本に導入するに当たり功績があった。また、1878(明治11)年設置の同校保母練習科で保育法をも教授した。のち1881(明治14)年以後は、華族女学校でピアノを指導している。翌年、娘の文(ふみ)を出産し、以後、日本における近代幼児教育の基盤整備に取り組むが、1908年(明治41年)5月4日、クララは夫の死去後にドイツに帰国し、1941(昭和16)年、ベルリンにおいて88歳で逝去した。なお、クララが離日した時期や、その事情は定かではない。また墓所も研究者の調査にもかかわらず不明のままである。南澤志げ(1996)によると、松野クララについて記載の中で、松野礪と1876(明治9)年結婚後の翌年、当時交通事情の不便な中、出産間近の体で4泊5日間、群馬県に出向き、指導者層を対象に幼稚園設置の必要性を訴え、恩物の使用法や実際の保育を指導し<sup>14</sup>、幼稚園教育についての講演を行い、地方における幼稚園設置の機運を高めた<sup>15</sup>とされる。

また、東京女子師範学校付属幼稚園の初代監事(園長)となった関信三は、1843(天保14)年に生まれ浄土真宗僧侶でもあった。東本願寺の随行者としてイギリス留学をしており、欧州滞在中に見聞したフレーベル教育を生かし、幼稚園創立に関する手引書の翻訳で幼稚園教育の日本への導入に大きな寄与を果たした。その関信三の下で首席保母として働いた松野クララとの繋がり大きく、山口県の華浦(鞠生)幼稚園設立への影響として、中央の情報が直接的に関与していることが示唆された。

### V. おわりに -まとめと今後の課題-

以上のことから、日本最古の仏教系幼稚園として設立された華浦(鞠生)幼稚園に焦点をあて、

<sup>13</sup> 小林富士雄(2005)「松野礪のドイツ留学時に同行した人々」『山林』4月号, pp. 24-31。

<sup>14</sup> 南澤志げ(1996)「松野クララ」日本ペスタロッター・フレーベル学会編『ペスタロッター・フレーベル事典』玉川大学出版部, pp. 375。

<sup>15</sup> 湯川嘉津美(2006)「松野クララ」日本ペスタロッター・フレーベル学会編『増補改訂版 ペスタロッター・フレーベル事典』玉川大学出版部, pp. 387。

史料や文献をもとに歴史的背景と様々な人物の繋がりからその嚆矢を解明することにより、華浦(鞠生)幼稚園の設立の経緯として明治期における山口県(長州藩)の歴史的背景が大きく影響していることが明らかとなり、以下のような知見が得られた。

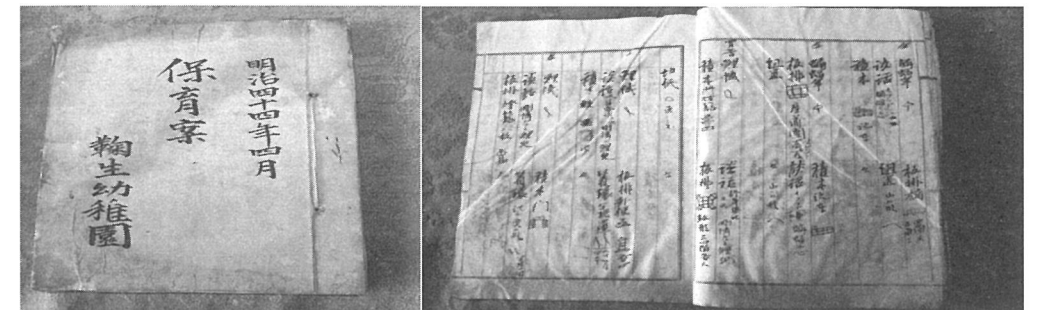
1. 明治の時代背景からも、教育に熱心な山口県において、幕末期・明治維新の原動力となった多くの人材を輩出した藩校明倫館・私塾松下村塾の吉田松陰との繋がりから、「中央」との直接的な繋がりがあったこと。
2. 岩倉具視使節団の欧米視察による総勢 107 名のメンバーの中の政府首脳陣や留学生との出会いや、左院視察団、浄土真宗本願寺派の洋行による欧米での交流により、欧米における幼稚園教育の最新情報が直接入手できたこと。
3. 林学でベルリン留学した松野礪とフリードリッヒ・フレーベルが創立した保母学校に学ぶ松野クララが出会い、国際結婚(正式な国際結婚日本第一号)したことにより東京女子師範学校主任保母として従事したことからの繋がりが大きいこと。
4. 3 の繋がりから、明倫館での同志であった楯取素彦が初代群馬県令として教育に力を注いだ際に、群馬県の幼稚園教育に尽力したことからも、楯取素彦との幼児教育との関係もあり、東京女子師範学校附属幼稚園の教育内容が山口県防府市の華浦(鞠生)幼稚園に直接的に影響していること。
5. 浄土真宗の僧侶であり江戸時代末期から明治を通じての日本の仏教界の重鎮である島地黙雷と初代鞠生幼稚園園長香川黙識と楯取素彦との関係は深く、女子教育や幼児教育の必要性など教育の推進に大きな影響を与えていたこと。
6. 東京女子師範学校附属幼稚園初代園長関信三と初代華浦(鞠生)幼稚園園長香川黙識との浄土真宗の関係や、東京女子師範学校附属幼稚園園長関信三と首席保母松野クララとの繋がりがあったこと。

以上のようなことから、明治期の山口県地方における幼稚園教育の歴史に関する研究の意義を見出すことができた。主に中央と山口県地方との繋がりを解明し、日本で初めての仏教系私立幼稚園華浦(鞠生)幼稚園の設立へ影響を与えた様々な要因が明らかとなった。さらに、明治政府の近代化政策のなかで、欧米の進んだ文化導入の一環として海外から取り入れられた「中央」いわゆる東京女子師範学校附属幼稚園設立に関係した人々と、山口県防府市にある日本最古の仏教系私立幼稚園関係者との影響と繋がりを明確化することで、本研究対象とする山口県の幼稚園教育の意義と必要性が示唆された。

今後は、引き続き明治期における山口県の幼稚園教育内容について調査し、保育実践内容に焦点をあて研究を進めていく。まず、史料発掘により提供していただいた鞠生幼稚園の貴重な史料をもとに、保育実践記録として記載されている日誌や保育案を正確に解読し把握するとともに、その保育実践内容について検討する。さらに、子どもと真摯に向き合う保育者の思いや

その語りなどが含まれている部分を抽出し分析する。その際、子どもと教師のやりとりの中で進められている保育の記述や、具体的な子どもの様子から作成されている日誌や保育案、また保育者の個人的な手記など、さらには教材や子どもの製作物などを分析し、その時代にみられる文化的・地域の特徴や子どもの実態および子どもと向き合う保育者の思いについて検討することを課題とする。

写真 1-1. 『明治四十四年 保育案』表紙 写真 1-2. 『明治四十四年 保育案』記載例



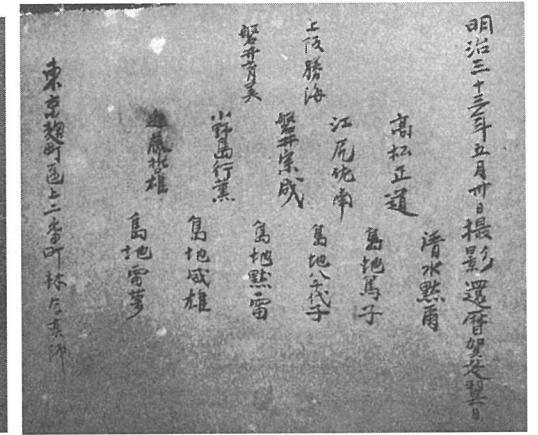
(私立鞠生幼稚園所蔵)

(私立鞠生幼稚園所蔵)

写真 2. その他 同私立鞠生幼稚園所蔵 史料







史料2. 明治33年撮影 島地黙雷 家族写真 (明覚寺所蔵)

(引用・参考文献)

浅井幸子(2008)「明治末における保育記録の成立過程保育者の語りにおける実践の意味に  
 着目して」『幼児教育史研究』第3巻, pp. 17-32.  
 一坂太郎(2014)『楫取素彦と吉田松陰の妹. 文』角川.  
 岩国市史編纂委員会(1957)『岩国市史』岩国市役所.  
 岩国小学校開校百周年記念事業協賛会(1972)『岩国小学校百年史』岩国市立岩国小学校.  
 大岡昇(1979)『岩国の文化と教育資料』  
 太田素子・浅井幸子(2012)『保育と家庭教育の誕生』藤原書店.  
 大塚武松(1931)『楫取家文書』日本史籍協会編 国会図書館デジタルライブラリー.  
 小川國治・小川亜弥子(2000)『山口県の教育史』思文閣出版.  
 岡田正章(1963)「明治初期の幼稚園論についての研究(そのI)」『人文学報』vol. 31, pp. 66-90.  
 岡田正章(1965)「明治10年代の幼児保育機関の性格についての研究」『人文学報』vol. 47, pp. 73-91.  
 岡田正章(1979)『幼児保育小辞典』日本らいぶらり.  
 海原徹(1990)『吉田松陰と松下村塾』ミネルヴァ書房.  
 楫取素彦没後百年顕彰会(2012)『吉田松陰投獄後の松下村塾を託されていた男爵楫取素彦の生涯』公益財団法人毛利報公会.  
 金子嘉秀(2013)「明治後期の幼稚園における中心統合主義カリキュラムの受容・実践内容に関する研究 ～広島女学校附属幼稚園師範科生徒の保育案ノートを手がかりとして～」『保育学研究』第51巻, 第1号, pp. 6-16.  
 金子嘉秀(2013)「明治後期の地方の幼稚園間の参照関係に関する研究 ～楠品次による広島女学校付属幼稚園への着目経緯を事例として～」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三

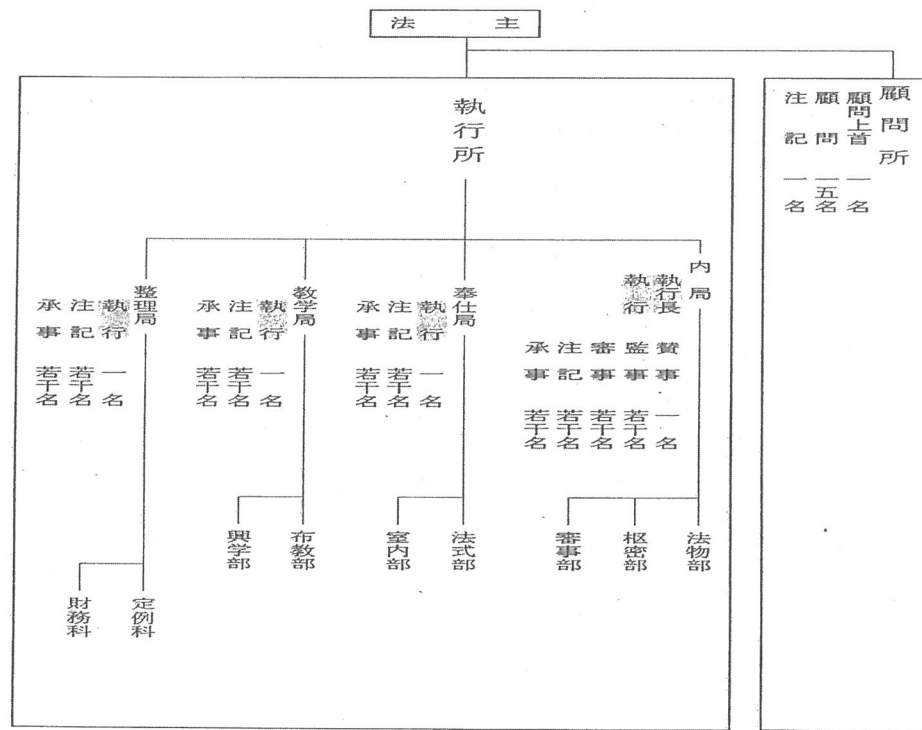
新門跡欧米各国御漫遊の建議  
 方今内外の形勢我が教勢を拡張すへきは蝶々を待たず。  
 已に明年度は海外布教に御着手被遊候御盛意は  
 感佩(深く感謝すること)の至に候。将来は益教勢  
 を大にすへき時機に向ひ候へば、奉 忍新法主猥下、

明年度欧米各国へ政教視察の為め御巡錫被遊、教光を  
 国威と共に宇内に發揮せしめられ候様、懇願に  
 不堪候。此段集會一同の議決に依り建議仕候也。  
 追て本建議御採用の上は随行者の御選定は充分の御注  
 意被遊度併て建議仕候。

明治三十一年十二月十七日

上首 香川 黙識 (可決)

表一 明治後期西本願寺職制(一部)



この表は次の資料に基づいて作成

明治三十二年三月十日発布「顧問所職制」(教宗二十四号)、「本山録事」(教海一潤三十号)  
 明治三十二年三月十日発布「執行所職制」(教宗二十五号)、「本山録事」(教海一潤三十号)  
 明治三十二年七月六日発布「内局職制」(教宗二十六号)、「本山録事」(教海一潤三十号)

史料1. 本願寺史料研究所報 第14号 1995 10/10



部, 第62号, pp. 151-159.  
 金子嘉秀(2013)「明治後期の幼稚園におけるフレーベル主義をめぐる保育実践の変容に関する研究—京阪神および広島女学校付属幼稚園を中心として—」広島大学博士論文。  
 上笙一郎・山崎朋子(1994)『日本の幼稚園』筑摩書房。  
 国吉栄(2005)『日本幼稚園史序説 関信三と近代日本の黎明』新読書社。  
 国吉栄(2011)『幼稚園誕生の物語「謀者」関信三とその時代』平凡社。  
 国吉栄(2000~2002)「幼稚園幼稚園誕生の時代 関信三の葛藤(1~12)」『幼児の教育』  
 倉橋惣三・新庄よし子(1934)『日本幼稚園史』東洋図書。  
 小針誠(2005)「戦前期における幼稚園の普及と就園率に関する基礎的研究—幼稚園の普及をめぐる地域間格差に注目して—」『乳幼児教育学研究』第14号, pp. 79-89。  
 小林富士雄(2005)「松野礪のドイツ留学時に同行した人々」『山林』4月号, pp. 24-31。  
 小林富士雄(2010)『明治のロマン 松野と松野クララ 林学・幼稚園教育事始め』大空社。  
 小林富士雄(2012)『岩倉使節団と明治の日本林政』米欧亜回覧の会。  
 小山みずえ(2009)「大正・昭和初期の幼稚園における遊戯研究の展開 大阪市立幼稚園を中心に」『上智大学教育学論集』第44巻, pp. 85-98。  
 小山みずえ(2012)『近代日本幼稚園教育実践史の研究』学術出版社。  
 宍戸健夫(1998)『日本の幼児保育 昭和保育思想史』上巻, 青木書店。  
 Silvio VITA (2008)「西本願寺の教状視察とイタリア訪問の足跡 一島地黙雷の『航西日策』を中心に—」『立命館大学研究紀要 言語文化研究』20巻2号, pp. 129-136。  
 西本佳代・国広勝代(2011)「山口県における幼児理解の歴史—幼稚園・保育所の拡充に着目して—」『山口福祉文化大学研究紀要』第5巻, pp. 117-125。  
 日本歴史学会編(1981)『明治維新人名辞典』吉川弘文館。  
 原田朋香(2010)「松野クララの経歴—先行研究の整理に基づいて—」武庫川女子大学大学院論集, pp. 119-128。  
 南澤志げ(1996)「松野クララ」日本ペスタロッチャー・フレーベル学会編『ペスタロッチャー・フレーベル事典』玉川大学出版部, pp. 375。  
 村山英雄(1982)『山口県師範教育の遺産』ぎょうせい。  
 文部省(1979)『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社。  
 山口県防府市教育委員会編(1961)『防府市史上巻』防府市教育委員会。  
 山口県防府市教育委員会編(1969)『防府市史下巻』防府市教育委員会。  
 山口県教育委員会編(1972)『吉田松陰全集十一巻』大和書房。  
 防長教育会(1984)『防長教育会百年史』防長教育会。  
 山本博文(2013)『あなたの知らない山口県の歴史』洋泉社。  
 山口県史編纂委員会(2010)『山口県史 史料編 近代2(政治・社会・文化)』山口県。  
 山口県教育委員会(1972)『山口県の教育100年』山口県教育委員会。

山口県教育会(1986)『山口県教育史』山口県教育会。  
 山口県教育会(1982)『山口県教育史 上』第一書房。  
 山口県教育会(1982)『山口県教育史 下』第一書房。  
 山口県(1967)『山口県の歴史』山口県(企画部広報課)発行。  
 山口県(1943)『防長歴史(上巻・中巻・下巻)』  
 湯川嘉津美(1988)「明治初期におけるフレーベル理解 フレーベル伝の記述をめぐって」『日本保育学会大会研究論文集』第41巻, pp. 650-651。  
 湯川嘉津美(1994)「明治初期地方における幼稚園受容の性格 ~大阪府立模範幼稚園の事例を中心に~」『香川大学教育学部研究報告』第1部, 第88巻, pp. 163-187。  
 湯川嘉津美(2015)「保育という語の成立と展開」『上智大学教育学論集』第49号, pp. 37-56。  
 湯川嘉津美(2001)『日本幼稚園成立史の研究』風間書房。  
 湯川嘉津美(2002)「小西信八の幼稚園認識」『人間教育の研究』第15号, pp. 75-90。  
 湯川嘉津美(2006)「松野クララ」『増補改訂版 ペスタロッチャー・フレーベル事典』玉川大学出版部, pp. 387。  
 湯川嘉津美(2007)「日本幼児教育史の研究の到達点と課題」(シンポジウム記録)『幼児教育史研究』第1巻, pp. 31-36。  
 吉村洋輔(2015)『至誠の人 楫取素彦』公益財団法人毛利報公会。